

ヒメホオヒゲコウモリ

Myotis ikonnikovi Ognev

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 前腕長33～36mm、頭胴長43～52mm、尾長31～40mm、体重4～7g、黒褐色系の体毛で刺し毛の先端が金色の金属光沢をもつが、不明瞭である。

【分布】 シベリア東部、朝鮮半島北部、サハリン、日本に分布する。日本では北海道、および中国地方を除く本州に分布する。ヒメホオヒゲコウモリ (*M. ikonnikovi*) を、本州東部（福島県を含む）に生息するフジホオヒゲコウモリ (*M. i. fujiensis*)、長野県以南に生息するシナノホオヒゲコウモリ (*M. i. hosonoi*)、北海道に生息するヒメホオヒゲコウモリ (*M. i. ikonnikovi*)、尾瀬と富士山から2個体だけ知られるオゼホオヒゲコウモリ (*M. i. ozensis*)、北海道日高山脈に分布するエゾホオヒゲコウモリ (*M. i. yesoensis*) の5亜種に分ける見解もある。なお、オゼホオヒゲコウモリを認めない見解もある。

【県内の分布、生息状況】 県内では尾瀬(1973年、1999年から2001年)と北塩原村(1999年)で確認されているが、詳しい分布状況は不明である。

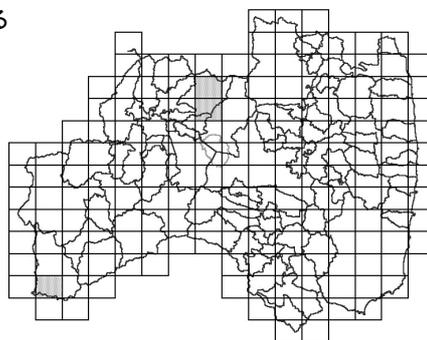
【生息に影響を与えている要因】 森林伐採（ねぐらとなる大径木の消失、採餌環境の悪化） 生息地局限

【特記事項】 樹洞を昼間のねぐらとしていと考えられるが、樹洞のある自然林の消失により、生息環境の悪化が懸念される。

【生息データ件数】 8

【主要文献】

- 木村吉幸他(2002a)福島県の翼手類 . 福島生物, (45) : 15-18 .
 木村吉幸他(2002b)福島県に生息するコウモリ類 . 哺乳類科学, 42(1) .
 前田喜四雄(1994a)コウモリ目 . (阿部 永監修：日本の哺乳類) .
 前田喜四雄(2002d)フジホオヒゲコウモリ . (改訂版レッドデータブック) .
 吉行瑞子(1974)尾瀬の翼手類 . 尾瀬の保護と復元, : 34-37 .
 吉行瑞子(1980)尾瀬の森林棲翼手類について . 哺乳動物学雑誌, 8(2・3) .



クロホオヒゲコウモリ

Myotis pruinus Yoshiyuki

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 前腕長30～34mm、頭胴長38～44mm、尾長33～40mm、体重4～7g、黒っぽい体毛で刺し毛の先端が銀色の金属光沢をもつ。

【分布】 日本固有種で、本州(中国地方を除く)、四国から報告されているが、現在まで10数個体、10力所程度の捕獲記録があるのみである。

【県内の分布、生息状況】 県内では只見町で1997年に初めて確認され、その後同じく只見町において2002年にもカスミ網調査で確認されているが、他地域で生息が確認されていないため、分布の現況は不明である。

【生息に影響を与えている要因】 森林伐採（ねぐらとなる大径木の消失、採餌環境の悪化） 生息地局限

【特記事項】 樹洞をねぐらとするため、樹洞のある自然林の消失により、生息環境の悪化が懸念される。

【生息データ件数】 3

【主要文献】

- 前田喜四雄(1994a)コウモリ目 . (阿部 永監修：日本の哺乳類) .
 前田喜四雄(2002a)クロホオヒゲコウモリ . (改訂版レッドデータブック) .
 佐藤洋司(2001)哺乳類 . (只見町史資料集4「会津只見の自然」) .

